

## 2012年度 第1回水工学委員会幹事会 議事録

**日時：** 2012年5月31日(木) 16:00～18:45

**場所：** 土木学会 A 会議室

**出席者：** 寶馨 (委員長), 道奥康治 (副委員長), 篠田成郎 (幹事長), 大石哲 (編集幹事長), 泉典洋, 今村正裕, 門田章宏, 神田学, 関根正人, 田中昌宏, 戸田圭一, 戸田祐嗣, 二瓶泰雄, 藤田一郎, 矢島啓, 横山勝英 [敬称略]

**議題：**

寶委員長からの挨拶の後、以下の事項について審議が行われた。

### 《報告事項》

#### 1. 水工学委員会構成

##### a) 委員の交代 (篠田成郎 幹事長)

2名の委員交代の紹介。

##### b) 水工学委員会と関連委員会等の構成 (篠田成郎 幹事長)

関連委員会について、これまで抜けていたものを含めて紹介された。

それぞれ関連委員の確認および交代委員の紹介が行われた。

沿関連 (外部関連委員会) は二瓶先生と横山先生の2名選出との修正指摘があった。

#### 2. 第48回水工学に関する夏期研修会 (2012年, 北海道大学) について (篠田成郎 幹事長)

8月27日～28日に北海道大学で開催する。

今回は、数値解析を中心に実務的な内容でプログラムが組まれている。

受講料は昨年度と同様とした。今後継続的に下げられるかどうか検討する。

講義内容を出版物する件もこれから協議を重ねていく。

150名の定員に近づけば受講料も下げられる可能性があり、多くの参加を依頼。

#### 3. 全国大会研究討論会について (篠田成郎 幹事長)

九州大学小松先生から「流水型穴あきダムの新しい展開とその可能性」に関するテーマで提案があった。小松先生の所属を確認する。

#### 4. 第17回水シンポジウム (岐阜) について (篠田成郎 幹事長)

7月26-27日で岐阜にて開催予定。

予算も予定通り。

水工学委員会から負担金を出すことが了承された。

#### 5. 各部会, 小委員会の活動報告及び活動計画

##### a) 水文部会 (神田学 部会長)

3月の委員会 (愛媛大学) の時に、水文部会を開催。

2件の研究集会 (水文研究集会, 地下環境水文学に関する) を開催。

「地下の環境水理」に関して香川大学で、「水文研究集会」は11月ごろ実施予定。

##### b) 基礎水理部会 (富永晃宏 部会長)

5月25日土木学会講堂にて「iRIC ver2.0 発表・説明会」を開催。

##### c) 環境水理部会 (二瓶泰雄 部会長)

土木学会の重点研究課題に採択された研究に関連し、第1回のWSを5月22日に開催。さらに、年末に実施予定の環境水理部会主催「流域圏シンポジウム」において、本課題をテーマとして開催予定。

研究集会を5月22-23日に水俣 (熊本) で開催。新しい試みでナイトセッションを実施。現地見学も含め参加者は約60名。

「環境水理学」の教科書についての現在目次について協議。平成26年3月に出版予定。

d) 河川部会 (泉典洋 部会長)

6月21-22日東大弥生講堂にて河川技術シンポジウムを開催予定。プログラムの紹介。

e) 地球環境水理学小委員会 (中北英一 委員長)

報告事項なし。

f) 東南アジア河川流域研究小委員会 (河村明 委員長)

報告事項なし。

g) ISO/TC113 小委員会 (堀田哲夫 委員長)

スイスの国際会議には出席している。6月の委員会の時に報告済。

h) 流量観測技術高度化研究小委員会 (藤田一郎 委員長)

流量観測技術高度化に関する合同観測会を開催。4月19日～22日に新潟県魚野川(信濃川水系)。5月18-20日に石狩川。今回の調査は融雪出水を狙った観測。今後、観測データをどのように公開するかを協議していく予定。

h) JHHE 編集小委員会 (戸田圭一 委員長・川池健司 幹事)

土木学会英文論文集に移行する。最終号の出版は11月の予定で、新規論文の受け付けは4月に終了。最終号は通常号の内容に加えて、①小松先生の Keynote Lecture に関する記事、②寶水工学委員長の記事、③戸田小委員長の記事、④全掲載論文の目録を掲載予定。

土木学会英文論文集の編集委員はこれから選定する。

JHHE という名前はなくなるので、廃刊という扱い。しかし、移行後もまったく別ものの位置づけとはせず、あたらしい英文論文集に引き継いでいくものとする。

## 6. その他

a) 調査研究委員会の予算配分方法の見直し (篠田成郎 幹事長)

24年度の活動評価結果に基づき25年度の予算を配分。

評価ポイントは情報発信数とし、行事参加者数と出版物購読者数の合計。

b) 平成24年度重点研究課題の審査・選考結果 (篠田成郎 幹事長)

採択数は4件、その内水工学関連で1件(環境水理部会関連)。厳しい採択率。

c) 超過洪水シンポジウム(5月25日)の報告 (篠田成郎 幹事長)

土木学会講堂にて5月25日に開催。参加者は78名。

d) 土木学会出版物の収支実績について (篠田成郎 幹事長)

水工学委員会関連の出版物は、水理公式集、水理公式集例題プログラム(CD-ROM)、水理実験指導書の3点。例題プログラム集のみ赤字。

e) 水工学関係者用メーリングリストについて (篠田成郎 幹事長)

土木学会のサーバーを用いた情報サービスに運用を移行。

## 《協議事項》

### 1. 平成24年度の年間スケジュールについて (篠田成郎 幹事長)

委員会ならびに幹事会の予定は以下の通り。第2,3回幹事会は水工学論文集編集小委員会の前に開催する予定。

2012年6月19日(火)	14:00~17:00	第1回委員会 講堂
2012年10月3日(水)	13:00~17:00	第1回編集小委員会幹事会
2012年10月4日(木)	12:00~13:00	第2回幹事会
2012年10月4日(木)	13:00~17:00	第1回編集小委員会
2012年11月7日(水)	12:00~13:00	第3回幹事会
2012年11月7日(水)	13:00~17:00	第2回幹事会編集小委員会
2012年12月13日(木)	13:00~17:00	第2回編集小委員会幹事会
2013年3月5日(火)	18:00~20:00	第2回委員会(名城大学)

### 2. 第57回水工学講演会(2012年,名城大学)の開催について(代理報告:篠田成郎 幹事長)

2013年3月5日~7日に開催予定。

懇親会の開催場所について、第 56 回開催の愛媛大では人数が多かった。同程度の参加者数があると現在の予定場所では入りきれない。現在、場所を検討中。

両シンポは今回も連続で実施。

初日夕方に開催される第 2 回水工学委員会にて、委員長選挙を実施予定。

### 3. 第 58 回水工学講演会の開催について（篠田成郎 幹事長）

2014 年 3 月は関東地区の順番。早稲田大学（関根先生）での開催を検討。

早稲田大学では、震災以降に建物のリフレッシュ工事を実施中。開催までに間に合うかは未定（関根先生）であるが、開催については前向きに検討。

### 4. 第 49 回水工学に関する夏期研修会（2013 年，海岸工学委員会担当）について（篠田成郎 幹事長）

2012 年 6 月 18 日の海岸工学委員会で場所が決定する予定。

### 5. 次年度水シンポジウムについて（篠田成郎 幹事長）

現在、高知県での開催について打診している。2012 年 6 月 18 日に寶委員長と篠田幹事長が高知大学に説明に行く予定。シンポジウムでの分科会の担当は、順番でいくと河川部会の予定。

### 6. 水工学論文集編集作業について（大石哲 編集幹事長）

委員交代による名簿の修正。56 回講演会の収支報告。57 回講演会の予算案の紹介。

第 57 回 Keynote lecture を福岡捷二先生、竹内邦良先生にお願いする予定。

編集幹事長の後任をどなたにやっていただけるか検討してくる必要あり（幹事長）。

当初予算案に対する実績についてどうか？（田中委員）⇒100 万円以上上回った（編集幹事長）。

理由としては繰越金の増加があり、一昨年と比較し収支のバランスがとれてきたところが挙げられる（岩西さん）。

製品展示に関して例年 0 である理由は？収入を増やすことを考えると、増やす努力をすることも考えては？（横山委員）⇒むやみに収入を増やすと管理費 25%がかかってくる（幹事長）。

広告の依頼はどなたが担当されているのか（田中委員）⇒例年ハイドロソフトさんから連絡。

天野委員の交代に伴い、交代委員の方への幹事兼任は経験もないのでいきなり担当していただくのは負担ではないか？（関根委員）⇒交代委員である岩野委員に確認する（幹事長）

昨年度は榊山委員のロードが高かった（幹事長）⇒海岸沿岸系（津波関連）で委員を増やす。

Keynote Lecture をお願いした先生の方への謝金はどうなっていますか？（田中委員）⇒特別講演の場合でも土木学会員以外であれば出すが、これまで出した実績はない。

## 7. その他

### a) 利根川出版企画について（篠田成郎 幹事長）

「水工学からみた我が国大河川（利根川）の特性と諸課題に関する検討 PT」が設置され平成 22 から開催されてきた、最終的には出版事業として活動。平成 23 年度以降は編集委員会として活動し、出版に向けて進められているが、その作業が伸びていた。

2012 年 7 月発刊予定。後日シンポジウム開催予定。土木学会の出版事業。

### b) 水理公式集改定小委員会について（寶馨 委員長）

11 年が経過しているの、そろそろ改定の時期。2 年程度かけて改定したい。

例題プログラム集には 69 のソースプログラムが掲載。こちらも同時に更新するか検討。

中身をどのように構成するかといった議論を進める予定。

主査・とりまとめをどのような方をお願いしていくのか検討が必要。

### c) 水理実験指導書改定小委員会について（寶馨 委員長）

どのような実験が多く実施されているかアンケートをとって反映させる。

前回の指導書作成では少人数担当、1 人 5 つくらいの実験を担当。

主に工業高校や高専で使用。

名前も現代的なものに変える必要がある。指導書だと先生が使用するイメージ。

あえてデジタル化せずに紙ベース（レポート提出等）でやることも必要。

<上記 2 件に関連して>

平成 11 年度の公式集から基礎水理編が削除，あった方がいいのではないか（泉委員）。

評判の把握は具体的にやっているのか（田中委員）。

検討準備会を発足させる予定，ユーザー意見や評判等の集約はそちらで実施（道奥副委員長）。

11 年たっているのだから，改定はありきで進む方向。名前についても検討（寶委員長）。

## ○水工学論文賞選考委員会報告

### 1. 平成 24 年度水工学論文賞，同奨励賞候補論文について（篠田幹事長，大石編集幹事長）

審査結果に基づき協議を行った。以下の議論を踏まえ論文賞ならびに論文奨励賞の候補について承認。本委員会に諮られることになった。

<議論>

選考規定の文章では論文賞と奨励賞を同時に受賞できるとも読み取れる（泉委員）⇒より多くの方に賞をとってもらうことを考える。そのため論文賞候補者は奨励賞候補から除外している。

上位 2～3 名程度という言葉が曖昧ではないか（二瓶委員）⇒奨励賞に関してはできるだけ多くの方にとの方針。審査結果によっては 4 名になることがあるため。

今回，2 編（3 番目 4 番目に該当）の同点論文をどのように取り扱うか⇒両者を候補とする。

論文賞候補が 2 編だけだった理由は，もっとも多くの候補があってもよかったのでは（泉委員）。

最初のスクリーニングにおける採点と，完成した論文に対する審査では論文のできも多少は違う。

直したものがよくなっている場合もある。スクリーニングの結果が引きずられるのもどうか（田中委員）。⇒スクリーニングのすそを広げることも可能であるが，今回の場合はかなり評点にも差が見られた。多くなるとそれだけ審査員を選びさらには審査が遅れるリスクもある。該当論文なしの年もあり，現行通りの規定で進めたい（幹事長，編集幹事長）

今回の候補論文については同じ審査員が両論文を読んでいるので，同基準で判断できている（編集幹事長）。

その他

第 1 回委員会は 6 月 19 日（火）14 時から土木学会 EF 会議室にて開催。

以上